



院長
伊藤 真理子
プロフィール

●(いとう・まりこ) 1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に真理子レディースクリニックを開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。

真理子先生の

女性の



乳 腺 炎

母乳がスムーズに出ずに乳腺に溜まってしまい、乳腺に炎症が生じる病気が乳腺炎です。乳腺炎には「うっ滞性乳腺炎」と「化膿性乳腺炎」の2つがあります。

うっ滞性と化膿性

うっ滞性乳腺炎は乳管が狭い、乳児の母乳を吸う力が弱いといった理由で乳腺に母乳が溜まり、乳房がシコリのように腫れあがります。炎症が進むと腫れた部分が真っ赤に熱くなります。

化膿性乳腺炎は乳児が母乳を吸う際に乳頭や乳頭周辺が傷つき、そこに細菌が入り込んで発症し

ます。症状はうっ滞性とほぼ同じですが、高熱が出ることもあります。

授乳はスムーズに

うっ滞性はスムーズな授乳を心がけることが予防につながります。まず授乳中は水分を十分とること。脂肪の多い食事は乳腺が詰まりやすくなります。

また授乳の仕方にも注意を払いたいもの。誰しも癖がありますが、母乳を乳腺に残さないよう乳児の抱え方を工夫したり、乳首を様々な角度で口に含ませたりしましょう。母乳がよく出る方は授乳の間隔が開いてしま

うのも危険です。

かまれないように

化膿性の予防はまずお母さんの手と乳児の口を清潔にしておくこと。また乳児に乳首をかまれないように注意しましょう。母乳が美味しくないと、母乳の御機嫌が良くない時などはかまれやすくなります。

授乳時にはアイコンタクトや語りかけなどで心を落ち着かせましょう。

発症した場合の治療法

それでも乳腺炎を発症した場合の治療法は、うっ滞性なら乳管の開通

をよくするようマッサージを施します。有効な漢方薬もお勧め。化膿性なら抗生物質や消炎鎮痛剤を内服しますが、切開して膿を排出しなければならぬこともあります。

お母さんの不思議

母乳を与える分、お母さんは水分とカロリーを十分補う必要があります。それでも授乳を続けるお母さんほど出産前の体重に戻りやすいというのが不思議なところですね。

